

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・根拠のある予想を立て、それを確かめるための実験の方法や条件を発想すること	・実験の結果を整理し、その結果を基に結論を導き出す力

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの予想を立てることはできるが、既有経験や既習事項から根拠をもって予想することは難しい。ア ・なぜこの方法で実験するのか、実験の結果から分かることは何かを捉えることが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・既有事項や既習体験を想起させ、関連付けて予想できるようにする。 ・実験方法を考える際に、結果の見通しをもたせて、実験の意義について捉えられるようにする。 	毎単元	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・既有経験や既習事項から根拠をもって予想を立てることができるようになってきているが、筋道を立てて表現することが苦手な児童がいる。ア ・実験の結果をまとめることはできるようになってきたが、結果を考察して結論を導き出すことは難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てる際に、既有経験や既習事項から、自分で考えてノートに書く習慣を付ける。根拠のある予想を基に話し合いをして友達の考えも取り入れる。 ・実験結果を全体で確認した後に、考察の時間を確保する。実験結果を考察し、文章で表現させる。 	毎単元	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもって実験の予想を考えることはできるが、その予想を用いて実験方法を考えることに課題がある。ア ・実験や観察の結果から、自分で考察することが苦手で、教科書の結論に結び付けてしまう。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想が正しいかどうかを確かめる実験方法を考える学習の時間を十分に確保する。 ・学習活動の中に、自分で考察する時間を確保し、予想と比べながら結果から言えることを話し合い、文章にまとめさせる。 	毎単元	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・検証したい事柄に応じて、変える条件と同一にする条件を正しく考える力が不足している。ア ・考察に実験の結果のみを書き、結果から問題に対する考察を話し合い、結論を導き出すことが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法を考える学習の時間を十分に確保し、実験方法の妥当性を吟味する時間を保障する。 ・事実と解釈(結果から分かったこと)を書かせてから問題を意識した話し合いを行わせ、より妥当な考えをつくりだすという学習の流れを定着させる。 	毎単元	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
--	--

- 3年 写真や動画機能を用いて、時系列に沿って記録をまとめる。それを共有し、結果について話し合う資料とする。
- 4年 自分たちで収集した画像や映像を基に、実験結果について考察をする。それを共有し、結論について話し合う資料とする。
- 5年 記録した情報を分類・整理して自分なりに考察する。それを共有し、結論が妥当であるか話し合う資料とする。
- 6年 実験結果を撮影し、記録した情報を分類・整理して実験方法・結果の妥当性をグループで吟味する。

全学年 学習の見通しをもたせるために、問題・予想・実験・結果・考察・結論の学習サイクルを学校で統一する。
単元末に学習問題について学んだことをふり返ったり、自然事象と結び付けて考えたりする時間を設定する。